

2021/08/15

大阪インターナショナルチャーチ ゲストスピーカー:アリスティア・マッケンナ牧師  
詩編 46 篇

46:1 神はわれらの避け所、また力。苦しむとき、そこにある助け。  
46:2 それゆえ、われらは恐れない。たとい、地は変わり山々が海のまなかに移ろうとも。  
46:3 たとい、その水が立ち騒ぎ、あわだっても、その水かさが増して山々が揺れ動いても。 セラ  
46:4 川がある。その流れは、いと高き方の聖なる住まい、神の都を喜ばせる。  
46:5 神はそのまなかにいまし、その都はゆるがない。神は夜明け前にこれを助けられる。  
46:6 国々は立ち騒ぎ、諸方の王国は揺らいだ。神が御声を発せられると、地は溶けた。  
46:7 万軍の【主】はわれらとともにおられる。ヤコブの神はわれらのとりでである。 セラ  
46:8 来て、【主】のみわざを見よ。主は地に荒廃をもたらされた。  
46:9 主は地の果てまでも戦いをやめさせ、弓をへし折り、槍を断ち切り、戦車を火で焼かれた。  
46:10 「やめよ。わたしこそ神であることを知れ。わたしは国々の間であがめられ、地の上であがめられる。」  
46:11 万軍の【主】はわれらとともにおられる。ヤコブの神はわれらのとりでである。 セラ

### はじめに

詩編 46 篇は、マルティン・ルターによって書かれた有名な讚美歌の元になっている詩だと思われ  
ます。ルターが書いたのは「神はわがやぐら」という讚美歌です。この讚美歌は、数年前にブラッ  
ド・ハウデイシェルさんが「宗教改革」について説教をされた時に OIC でも紹介されました。  
それ以降何度も OIC で歌われているのではないのでしょうか。ヒゼキヤ王の時代に神がエルサレムを  
アッシリアの王の陣営から救い出されたことがこの詩編の歴史的背景だと思われ  
ます。  
この詩編の背景を調べたい方は、旧約聖書からそれなりの量を読む必要があります。列王記下 18-  
19 章、歴代誌下 32 章、そしてイザヤ 36-37 章です。  
ヒゼキヤ王は詩人だったので、この詩編だけでなく 47 篇と 48 篇も書いたと考えられます。

この詩編は、神の民の敵に対する神の勝利を祝うものです。

この詩編の人称代名詞は、「われらの」「われらは」となっていて、この詩編を私たちが皆で励ま  
しとして、そして礼拝のために用いるように促しています。

この詩編で強調されているのは、神の民と共にある主のご臨在です。

これが分かるのが 1、5、7、11 節です。

またここでわかることは、人生において困難な状況で私たちが神を信頼すれば、神の民としての人  
生に大きな違いが生まれるということです。

この詩編は神に焦点を当てると同時に、神を信頼する民に与えるその違いがいかに大きいか  
に焦点を当てています。

理解しやすいように詩編を 3 つの部分に分けてみることにします。

#### 1. 神は私たちの力のやぐら(1-3 節)

英語で「refuge (避け所)」となっている部分は、原語のヘブル語訳では「避け所となる逃  
れ場」という意味です。けれども、7 節と 11 節にある同じ言葉には少し違う意味がありま  
す。ここでの意味は「とりで」または「城塞のような、そそり立つやぐら」です。

いずれのヘブル語の言葉も、自分を取り囲むものが崩れ落ちるように思える時でも、神の民  
にとって神は信頼できる避け所であると断言しています。

またここでは 100% 強固に見えるもの 2 つが強調されています。それは、2 節にある山々と  
地です。

山々はとても安全な場所で地は強固であることで多くの人は意見が一致するでしょう。けれども日本に住んでいたら分かるように、「地震」が起こるのも事実です。ですから英語のニュー・リビング訳では「たとい地震が来ようとも恐れることはない」とあるのです（2 節）。

けれども、詩編の著者が言う山々が海へ移るとするのは、もっと深刻な問題です。皆さんもご存知のように、日本は自然災害が頻繁にある国です。

過去 26 年間に、阪神淡路大震災と東日本大震災の二大災害が起こりました。東日本大震災は、津波や原子力発電所事故の誘因となりました。

阪神淡路大震災では、6000 人もが亡くなり、45000 人が住む場所を失いました。被害額は約 2000 億ドルとされています。日本円では約 2 兆 2,096 億 8,000 万円です。

東日本大震災はさらに多くの方が亡くなりました（約 16,000 人）。

日本経済への負担は対応していくには巨額すぎるものでした。こういった自然災害に加えて、毎年約 1000 件もの土砂災害があり、台風はよく土地建物に損害をもたらし命さえも奪います。

この詩編で神は、日本人クリスチャンや日本に住むクリスチャンが将来の災害を避けることができるとは約束しておられません。けれども、私たちが人生で非常に困難な状況にある時に、神は避け所を備えてくださると約束しています。

困難な状況は、経済的危機、健康の問題、もしくは精神的・感情的局面という形で来るかもしれません。どこからその危機が来るかは重要ではなく、その危機に対してどう応答するかが重要です。神は詩編で、避け所である神のもとへ行くよう教えています。

神は、人生のあらゆる困難な場面で逃れ場になってくださると約束しています。ウィキペディアには、大阪は日本で一番安全に住める場所だと書いてあります。けれども、2018 年 6 月 18 日、私たちが住んでいた生駒の家は激しく揺れました。

深刻な地震かもしれないと思い、私は妻のウェンディの手を握って「祈ろう」と言いました。地震から守られた訳ではありませんでしたが、神は地震のうちにも平安を与えられました。神は私たちが困難をくぐり抜けるようにされます。そうすることで神は私たちを強め、数々の危険や不確かさのうちにも人生を歩んでいけるようになるのです。

詩編 29:11 にはこうあります。

「【主】は、ご自身の民に力をお与えになる。【主】は、平安をもって、ご自身の民を祝福される。」

危機に直面する時、間違った人に助けを求めるのは危険です。

ユダヤの指導者たちは危機的状況でエジプトに助けを求めるという誘惑に遭いました。

イザヤ 30:1-2 「30:1 「ああ。反逆の子ら。——【主】の御告げ——彼らははかりごとをめぐらすが、わたしによらず、同盟を結ぶが、わたしの霊によらず、罪に罪を増し加えるばかりだ。 30:2 彼らはエジプトに下って行こうとするが、わたしの指示をあおごうとしない。パロの保護のもとに身を避け、エジプトの陰に隠れようとする。」

私たちが他の誰でもなく神のもとへ行く時、神は私たちを助けると約束されています。

聖書の神はどのようなことでもできる力と権力があるのです。

神の知恵は、その時に理解できなかったとしてもそれが私たちにとって正しいことであるといつも保証してくれます。神は困難の時の「そこにある助け」であると詩編が言っていることに注目しましょう。待つ必要はありません。危機がやってきたら私たちはすぐさま神の所に行くことができます。

## 個人の証

数週間前に、次男のジェイムスからビデオ電話がありました。フランスの家族が来ることができなくなったために結婚式がキャンセルになり、彼は非常に感情的になっていました。彼はフランス人女性と挙式予定だったのです。

彼は二年間かけて貯金し、様々な面で多くの準備をしてきましたから、とても残念なことでした。けれども私はジェイムスに「神に祈って、神がこの状況でなさることを見よう」と言いました。長い話ですから結論から言うと、結婚式は決行されました。多くの招待客は英国からで、フランスから参加したのは花嫁の両親だけでした。神は私たちが望んだ方法で祈りにお応えにはなりませんでしたが、確かに祈りには応えてくださり、素晴らしい結婚式になりました。

結婚式ができたことで神は栄光をお受けになりました。私たちが聖書の神に助けを求め祈ったからです。この詩編で著者が示す最初のポイントは、神は私たちの力のやぐらであり、私たちは神の助けが必要な時、神にまっすぐ向かわなければならないということです。

## 2. 神はわれらの喜びの川 (4-7 節)

詩編の描写は、エルサレムの町へと移ります。そこでアッシリアの王の陣営が周囲を囲んで宿営していたために、神の民は中に閉じ込められていました。イスラエルでは水が大変貴重でしたが、エルサレムはイスラエルでは数少ない水源が付近にない場所に築かれた町の 1 つでした。

けれども賢明なヒゼキヤは、キデロンの谷にあるギホンの湧き水をシロアムの池に繋げる地下水システムを町の城壁内に築きました。

ですから、町の中でも新鮮な水が手に入りました。

**2018 年 4 月 28 日に OIC イスラエルツアー**に参加された方は、ヒゼキヤの水路を歩くことができ、この詩編にある当時の神の民への素晴らしい備えを、身をもって証されましたね。アッシリアの王の陣営に攻撃されていても、彼らはエルサレムを流れるヒゼキヤの水路を通して新鮮な水の供給を得ることができました。

当時こうしてエルサレムで物質的に「川」を与えることで神の民を元気づけただけではなく、私たちが霊的に元気づける「川」を神が備えてくださることを著者は知っていました。

詩編 36:8 「彼らはあなたの家の豊かさを心ゆくまで飲むでしょう。あなたの楽しみの流れを、あなたは彼らに飲ませなさいませ。」

イエスは、こんにちの私たちのための生ける水について語られました。

ヨハネ 7:37-39 「7:37 さて、祭りの終わりの大いなる日に、イエスは立って、大声で言われた。「だれでも渴いているなら、わたしのもとに来て飲みなさい。7:38 わたしを信じる者は、聖書が言っているとおり、その人の心の奥底から、生ける水の川が流れ出るようになる。」7:39 これは、イエスを信じる者が後になってから受ける御霊のことを言われたのである。イエスはまだ栄光を受けておられなかったため、御霊はまだ注がれていなかったからである。」

歴史上、神の民は神という避け所を求めてきました。神を信頼したのです。

結果として神はエルサレムをわざわいから救い出されました。

主の御使いが 18 万 5000 人のアッシリア陣営を倒し、セナケリブを帰しました。

イザヤ 37:36-37 「37:36 【主】の使いが出て行って、アッシリヤの陣営で、十八万五千人を打ち殺した。人々が翌朝早く起きて見ると、なんと、彼らはみな、死体となっていた。

37:37 アッシリヤの王セナケリブは立ち去り、帰ってニネベに住んだ。」

神の民が神に信頼する時、神がしてくださることは驚くべきものです。

こんにちの私たちが究極的に確信を置くもの—それは私たちのたましいの救いのゆえの主イエスへの信頼です。私たちの永遠のたましいのための犠牲は死でした。それは 18 万 5000 人の死ではなく、神の御子、イエス・キリストの死です。

イエス・キリストにおける信頼は私たちのたましいに生ける水を与えます。

あなたがイエス・キリストを自分の救い主としてご存知なら、あなたのたましいは人生の困難に立ち向かうべく日々元気づけられています。

毎日、その日の始まりにイエスにお会いし、一日を始めるにあたってたましいを元気づけてくださるよう聖霊にお願いすることは素晴らしいことです。

それはまるで暑い日に冷たいシャワーを浴びるような、日本の夏の暑い日にエアコンのきいた部屋にいるようなものです。

その違いは明らかです。神の聖霊が私たちのたましいを日々生き返らせ、私たち自身はもちろん他の人が私たちの内に気づく違いにもなるのです。

イエスと共に歩んでいけば、聖霊が日々あなたのたましいを生き返らせますから、周囲の人はあなたが自分たちと違うことに気づくのです。

私たちは世や他の宗教に助けは求めません。私たちは聖書の神に目を向けるので、その違いが明確なのです。

どうか神が、困難な時にいつも私たちが神に助けを求め、主の御霊によって元気づけられる体験をすることができますように。

神は私たちの力のやぐら、喜びの川であり、われらの神なのですから。

### 3. 神はわれらの神、栄光を受けられる方 (8-11 節)

3 つ目の場面は、エルサレムを囲む地に移ります。

そこは 18 万 5000 人のアッシリアの陣営が倒れた場所です。

彼らの武器や装備は周囲に散乱していました。

実際に戦うことはありませんでしたが、神の民の信仰を励ますために神がなされた驚くべき御業の証拠がいたるところにあったのです。

8 節には、「来て、【主】のみわざを見よ。主は地に荒廃をもたらされた。」とあります。

聖書の神はその敵を打ち負かし、武装解除したのです。それはすべて神の働きでした。

「アッシリアの陣営を打ち負かした」と、人間がその手柄を主張することはできませんでした。

その勝利は祈りの答えでした。

遡ってヒゼキヤがどのように祈ったのかを見てみましょう。

列王記下 19:19-20 「19:19 私たちの神、【主】よ。どうか今、私たちを彼の手から救ってください。そうすれば、地のすべての王国は、【主】よ、あなただけが神であることを知しましょう。」 19:20 アモツの子イザヤはヒゼキヤのところに人をやって言させた。「イスラエルの神、【主】は、こう仰せられます。『あなたがアッシリヤの王セナケリブについて、わたしに祈ったことを、わたしは聞いた。』」

そうです、神はヒゼキヤの祈りを聞かれ、そして応えられました。神は私たちにではなく神に栄光がもたらされる祈りを聞かれ、応えられるのです。

10 節には、「やめよ。わたしこそ神であることを知れ。」とあります。

「やめよ」の部分のヘブライ語は文字通り「その状況から手を引き、ゆったりしていなさい」という意味があります。マルティン・ルターはこの部分をこう訳しました。

「神にあって静まり、形づくっていただきなさい。」

私たちは皆、自分の人生を自分で何とかしようと、なんでも自分ですることを好みます。

けれどもクリスチャンとして、私たちは神のしもべであるべきです。

神に状況をお任せし、ただ神の命令に従わなければなりません。

困難な状況から私たちが手を引き、神の御業を待つ時、神だけがすることのできる素晴らしいことを見ることができるとのことです。

イザヤ書は、神を待ち望む者の代わりに神は働いてくださると教えています。

イザヤ 64:4 「64:4 神を待ち望む者のために、このようにしてくださる神は、あなた以外に  
とこしえから聞いたこともなく、耳にしたこともなく、目で見たこともありません。」

待つことは大変「非生産的」のように思えますが、待っている時間にも神は私たちの人生の  
内に働き、神が私たちに次に歩んで欲しいと思われる道を備えてくださっています。  
神は私たちが困難な場面に遭遇することを許され、そのことで私たちの信仰が成長し神に栄  
光がもたらされると聖書は教えています。

### 結論と応用

私たちがどのような困難にあっても、恐るべき災害に遭っても、神だけが私たちの保証なの  
だと詩編は教えています。

神ご自身が、私たちが安全にかくまう避け所なのです。

神は私たちの力です。神が私たちの代わりに働いてくださると信頼しなくてはなりません。  
私たちにはできなくても、神には可能です。それは、神がすべてにおいて御力を持っている  
からです。

神は困難のただ中にある助けです。神は私たちが求める時に助けることができるよういつ  
もそこに準備万端で居てくださいます。

神の川は私たちの保証です。聖霊が私たちの霊的生活、霊的回復を与えてくださいますから、  
毎日御霊の助けを求めなくてはなりません。主は人生の砂漠におけるオアシスです。

神の目的は私たちが静まるための平安を与えます。神が祈りに応えられるのを待ち、私た  
ちは強く成長し、神をもっと知るようになるのです。

神における信仰と服従を通して、私たちは平安と保証を見出すのです。

### では、今朝 OIC の皆さんにはどのように応用できるでしょうか？

1. 個々の状況 - 皆さんはそれぞれの人生において違う状況に直面していることと思います。  
その問題がどのような問題かは重要ではありません。けれども、この問題や困難のこ  
とで誰の所へ行くかが重要です。祈りを持ってすぐに神のもとへ行かなくてはなりません。  
神の御顔を仰ぎ、この困難のうちにある神の目的を探るべきなのです。完全にすべてを  
神に明け渡し信頼することで、平安と助けを見出すでしょう。

2. 共通の状況 - 神が新しい牧師を送ってくださるよう皆さんが祈っていると思います。こ  
れは間違いではありませんが、時間がかかるかもしれません。神の選ばれる人が与えら  
れるならそれまでどれだけ待っても良いのです。

私が 5 年間 OIC の牧師を務めることになるまで、神は 20 年以上かけて私を整えられま  
した。

私にとってそれは待つ価値のあるものでした。

皆さんが熱心に祈り神が新しい牧師として選ばれる方を待つうちに、神が願いを聞き入  
れてくださることを願います。

**神の答えに皆さん驚かされるかもしれませんね？！**

皆さんが神を求め、祈り、待つにあたり、神が皆さんお一人お一人を祝福されますよう  
に。

アーメン